

国語教育

第116号

都小国研多摩地区研究会事務局

身に付けたい力を「意識する」とは

～2年次副主題「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」～

東京都小学校国語教育研究会
多摩地区研究会会長 山崎 尚史
(青梅市立第二小学校長)

東京都小学校国語教育研究会多摩地区研究会（以下 多摩地区研究会）は今年度も多摩地区の国語教育の充実につながるよう、会員と共に研究に力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、都小国研では、令和8年度に開催される全国小学校国語教育研究会東京大会を見据えて、昨年度から研究主題を「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語教育」とし3年間で研究を深めていく予定です。国語科の学びを通して豊かな言語生活を実現できるよう、2年次の今年度は、副主題を「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」として研究に取り組みます。

ここに示されている「身に付けたい力」を意識するのは誰でしょうか。言うまでもなく、学びの主役は児童です。児童自身がどんな力を身に付けたいのかを意識でき、自分自身で学んでいくことが目指す姿です。

そしてそれと同時に、指導者である私たちの果たす役割は大きなものであると言えます。児童が身に付けたい力を意識できる授業を設定するのは私たちです。いきなり児童自身が「自ら学びを進める」ことができるようにはなりません。その力を身に付けられるようにしていくことは、これまでも志向してきましたが、その重要性が更に増しているのです。

その実現のために、昨年度の副主題で取り組んだ「言葉による見方・考え方を働かせる」という視点を生かしながら、児童が学ぶ価値を実感でき、探究につながる単元計画、評価、系統的な指導の積み上げなど授業の工夫に挑戦していきたいと考えています。

指導者の学ぶ姿勢が児童の学ぶ姿につながります。私たちも研究の視点を明確にして今年度の研究をすすめていきます。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

一緒に学びませんか？

多摩地区研究会は、主に多摩地区の学校に在籍し、「国語を学びたい」「国語教育の発展に努めたい」という思いをもつ先生方による研究団体です。「話すこと・聞くこと部」「書くこと部」「読むこと部」の3つの部で構成され、年1回の研究授業に向けて部会ごとの協議会でより良い国語授業づくりについて学び合っています。ベテランから若手まで和気あいあいと取り組んでいます。広い多摩地区での参加がしやすいように、リモート参加もできるようにしています。

11月には「多摩まなび塾」を開催し、部員以外の皆さんにも、国語を学ぶ機会を設けています。

機関紙「国語教育」を年3回発行し、研究の成果を発信しています。また都小国研のホームページ中の多摩地区のページの充実にも取り組んでいます。右のQRコードを利用し、アクセスしてみてください。多摩地区研究会に興味のある方、お気軽に事務局までご連絡ください。一緒に学びませんか？



都小国研



多摩地区研究会

令和6年度都小国研多摩地区研究会 総会報告

令和6年度都小国研多摩地区研究総会が、5月20日(月)青梅市立第二小学校で開催されました。

- 1 挨拶・来賓紹介 都小国研多摩地区研究会会長 山崎尚史
- 2 議事 (1) 令和5年度活動報告 令和6年度活動計画
(2) 令和6年度役員・事務局承認
(3) 新会長挨拶
- 3 令和5年度活動報告

(1) 話すこと・聞くこと部 「求めて聞き、関わって伝える力」を育てるために

単元名 「効果的に資料を使って、心に残るスピーチをしよう」～届けよう、未来を見つめるメッセージ～

授業者 小平市立小平第八小学校 森永 佳代 主任教諭

講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 邑上 裕子 先生

6年生が卒業前に取り組む単元として、これまでに学んだことを生かしながら構成や話し方を工夫し、効果的に資料を示してスピーチを行う活動を設定した。話すこと・聞くことの既習事項確認表を単元の初めに提示することで、児童が身に付けてきた力を自覚するとともに、この単元で付けたい力を意識できるようにした。また、各時間の活動やめあてを焦点化して提示することや、スピーチの内容を検討する段階からグループでの交流を意図的に行うことを通して、友達のアドバイスを生かしながら自分の伝えたいことについて深く考え、聞き手の心に残るスピーチを目指して粘り強く取り組めるよう指導計画を工夫した。当日の授業では、三人組になり、自分の作ったスピーチメモと資料を友達に見せながら、できているところまでのスピーチを行い、友達からアドバイスをもらう活動を行った。相談したいことをあらかじめ友達に伝えることで焦点を絞った交流となり、それをもとにスピーチや資料をよりよくしようとする児童の姿が見られた。講師の邑上先生からは、「児童自身が『言葉の働き』(見方・考え方)に着目できるよう工夫した取組であった。三人でひとつのスピーチを作り上げようという声掛けで児童同士が関わり合う必要性が生まれ、よりよいスピーチにしよう和前向きに伝え合っていた。関わり合っている姿を次時にも生かし、指導と評価の一体化を図ることが大切である」とご指導いただいた。

(2) 書くこと部 児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

単元名 「まとまりに分けて、お話を書こう」～人形でのやり取りを生かして、楽しんで作ろう～

授業者 府中市立府中第六小学校 木村 千恵 主任教諭

講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 成家 亘宏 先生

2年生の児童が、自分の思いや考えを明確にして、事柄の順序に沿った簡単な構成を考えて書くことができるように単元を構成した。自分だけの物語へ愛着をもたせるために、登場人物の人形を図工の時間に粘土で作成した。さらに「はじめ」と「おわり」の場面絵は限定し、「中」の場面絵を「空・野原・土・海」の4種類から選択させた。「はじめ」と「おわり」の場面絵を限定することで、児童は初めての創作文の学習でも、「できそう」という安心感をもって取り組むことができた。また、「中」を自ら選択させることで、想像を広げ、話の展開を考えやすくすることができた。「登場人物シート」「組み立てシート」「記述シート」などのワークシートも、児童の取り組みやすさを支えた。

当日の授業では、人形を使ってペアでやり取りすることで、出来事や登場人物の行動を想像することができた。自分たちの考えた世界で、楽しく話を展開する児童の姿が見られた。研究協議では、「児童が想像を膨らませられるように学習過程を組んでいること」や「ペア活動をよりよくするために、活動の間に自分で考える時間を確保すること」などについて意見が出た。講師の成家先生からは、構成について、学習進度は児童に合わせることややり取りの後にどの言葉がよかったかを児童に尋ね次の活動につなげることなど、ご教授いただいた。

(3) 読むこと部 自立した学習者を育てる読むことの指導

単元名 「事例と意見の関係に気を付けて読もう」～筆者からのメッセージを受け取ろう～

授業者 立川市立若葉台小学校 浅野 剛基 主任教諭

講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 井出 一雄 先生

説明的文章で培ってきた読む力や言葉による見方・考え方を活用して、児童が自分で学習を進めることができる単元展開に重点をおいて研究を進めた。本単元では、児童が学習材と初めて向き合ったときに感じる疑問や解決したい課題を大切に、想像力のスイッチの意味や筆者が読み手に伝えたいことを確かめながら要旨を捉え、自分の生活と結び付けて考えをもつことを学級全体のゴールとした。本単元では、児童自身の力で学ぶために、既習事項(学習内容・学習方法等)を具体化したものを手引きとし、必要に応じて確認しながら学習計画を立て、自分で決めた学習内容や学習方法に基づいて学習材を読み進めた。

当日の授業では、手引きを確かめながら学習材を読み、要旨を捉えるために必要な学習内容や方法を自分で計画を立てた。研究協議では、主体的に学習している場における教師の効果的な指導の在り方等について話し合った。講師の井出先生からは、要旨の把握には、事実と意見の関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることが重要であることをご指導いただいた。また主体的な学習者を育てるには、状況に応じて教師が学級全体に効果的な指導を行うこと、指導内容を吟味すること、複数の友達と少人数による交流を繰り返し、考えの深化につなげること等をご指導いただいた。

4 指導講評 「令和6年度の研究の方向について」

講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 山口麻衣先生（文京区立千駄木小学校校長）

（1）都小国研 研究主題「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習」の設定について

令和3年の『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』を受け、更に令和4年度の研究成果と課題を基に、令和5年度より研究主題を設定した。令和4年度の各部の研究成果として、子供たちが主体的に学習に取り組むには、導入場面での教師の手立てや日常生活との関連のたせ方を工夫することにより、子供の「やりたい」「できそう」を引き出すことが大切であると分かった。また、対話的な学習を進めるためにも、多様な考えをもつ人々と協働することでより学習が高まることを経験させていくことが重要である。児童が自らの学習を振り返り、自らの力を自覚するとともに、言葉への自覚を促し、学習を調整してより伸びようとする態度などを育てる学習を積み重ねることを通して、より一層深い学びが実現するという手応えを感じ、この研究主題を設定した。令和8年度の全国小学校国語教育研究会の東京大会を見据えた3カ年計画で研究を進めている。

（2）研究主題「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習」について

「他者と協働し」とは、急激に変化する時代の中で、一人一人の児童が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重すること、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えられる児童の育成を目指す。更に、「豊かな言語生活を実現する国語学習」とは、国語科における言語能力の向上を他教科の学習及び日常の生活にも活用させることを期待し、持続可能な社会の創り手となることができるようその資質・能力を身に付けられるようにする学習である。

副主題として、令和5年度「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる、令和6年度は身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める、令和7年度は学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとすると設定した。さらに、以下の3点を研究主題に迫るための観点とした。

- ・児童が身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。
- ・学習活動において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもち。
- ・獲得した言語能力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

（3）言葉による見方・考え方について

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかという言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象とするという特質を有している。事物、経験、思い、考え等を言葉で理解したり表現したりする際には、対象と言葉、言葉と言葉の関係を創造的、論理的思考、感性・情緒、他者とのコミュニケーション等の側面から、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けるといったことが行われており、そのことを通して、自分の思いや考えを形成し深めることが、国語科における重要な学びあると考えられる。（平成28年中教審答申より）そのため、児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるように授業改善を行う必要がある。児童自身がサイクルを回すことができるようにし、言葉による見方・考え方を働かせて資質・能力を身に付け、言葉による見方・考え方を豊かにできるように促したい。

「言葉による見方・考え方」とは、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示したものと言える。「言葉による見方」とは、どのような視点（対象と言葉、言葉と言葉との関係を言葉の意味、言葉の働き、言葉の使い方等）に着目するかであり、「言葉による考え方」とは、どのような考え方（統合的に思考・判断し、理解したり表現したりする捉え、改めて言葉に着目して吟味する問い直し）であり、それらを働かせて言葉への自覚を高めることである。

（4）令和5年度の成果と課題について

成果は、「言葉による見方・考え方」を部会ごとに検討し、各部会が捉える「見方・考え方」を具体的に示すことができたことである。更に、見方・考え方が言語活動の特色によって、各部で捉え方が異なることに気付くこともでき、各部の研究を共有できた。また、見方・考え方をもとに単元づくりをしていこ

うという意識ができた。課題は、「言葉による見方・考え方」を授業の中で位置づけ、自らの主体的な学びに活用できるようにすること、豊かな言語生活とはどういうことか、都小国研が目指す「豊かな言語生活」を考えて各部で共有していくことである。

(5) 令和6年度 副主題「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」について

まず、各部会が捉える「見方・考え方」の授業での位置づけを検証する。「見方・考え方」を通して身に付けたい力を意図的・計画的に児童に意識させ、自ら学びを進める主体的な学習者の育成を目指した研究に取り組んでいく。そして、単元や内容のまとまりの目標と評価規準を指導者と学習者が共有する方法や共有した内容を活用する授業展開などを各部で提案していきたい。授業は一度きりのものではない。系統性を生かして繰り返し取り組むことでブラッシュアップさせ、研究を積み重ねることで児童の力を高めていきたい。

5 閉会の言葉

都小国研多摩地区研究会副会長 薄井智美

令和6年度役員・事務局

会長	山崎 尚史	書くこと	青梅市立第二小学校校長
副会長（部長）	忍足 留理子	話すこと・聞くこと	府中市立府中第二小学校校長
	薄井 智美	書くこと	町田市立町田第六小学校校長
	富永 大優	読むこと	福生市立福生第六小学校校長
副会長（副部長）	前田 元	話すこと・聞くこと	西東京市立田無小学校校長
	所 水奈	書くこと	狛江市立狛江第三小学校校長
	田村 香代子	読むこと	府中市立府中第七小学校校長
事務局長	加藤 美穂	書くこと	国分寺市立第五小学校
事務局次長	田中 史子	話すこと・聞くこと	日野市立仲田小学校
	白倉 裕子	読むこと	府中市立小柳小学校
事務局員	宮崎 弘美	話すこと・聞くこと	小金井市立小金井第二小学校
	森永 佳代	話すこと・聞くこと	小平市立小平第八小学校
	三道 博子	書くこと	八王子市立由井第一小学校
	山崎 由紀子	書くこと	国立市立国立第七小学校
	木村 千恵	書くこと	小金井市立本町小学校
	田中 静香	読むこと	立川市立第一小学校
	後藤 千恵子	読むこと	町田市立町田第四小学校
	大西 聡子	読むこと	小平市立小平第四小学校

【令和6年度多摩まなび塾のご案内】

日時 令和6年11月9日(土) 午前9時15分から12時まで

会場 府中市立府中第二小学校 京王線府中駅下車 徒歩10分

南武線府中本町駅下車 徒歩15分

問い合わせ先 立川市立第一小学校(042-523-4428) 田中静香